株式会社バルカー

証券コード：7995

株主の皆さまへ

2021年3月期(第121期)

バルカーレポート

2020年4月1日 ▶▶ 2021年3月31日

Value & Quality

VALQUA

THE VALQUA WAY

基本理念

Value
&
Quality

（価値の創造と品質の向上）

4つの経営理念

- 社会の発展のために
- 正正堂堂と
- 世界中のステークホルダーへ
- 独創的技術で

行動指針10項

1　事業を通じた社会への貢献
2　顧客感動の提供
3　人格と個性の尊重
4　株主との信頼関係の構築
5　地域社会との共生
6　安全衛生は全てに優先
7　コンプライアンス遵守と誠実な行動
8　環境にやさしいモノづくり
9　資産の保全と有効活用
10　チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり

Value & Quality

価値の創造と品質の向上

ごあいさつ

株主の皆さまに2021年3月期（第121期）バルカーレポートをお届けします。

当期のわが国経済は、期を通じて新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を色濃く受け、個人消費及び企業の生産活動並びに設備投資のいずれもが低水準で推移したものの、後半には一部の製造業の生産に持ち直しの動きが見られました。
また、海外経済は、多くの国や地域、幅広い産業において新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、後半には一部の国で企業活動や雇用情勢に明るさが見える状況も生まれました。

このような事業環境下バルカーは、新型コロナウイルス感染症による企業活動への影響を最小限に抑え、回復を速やかなものにする施策を実施するとともに、当期から開始した3か年中期経営計画“New Frontier 2022”（NF2022）に沿って、将来におけるさらなる拡大に向けた戦略を推進しました。

2022年3月期（第122期）に向けては、経済回復がより色濃いものになると期待される一方で、新型コロナウイルス感染症の変異種や米中問題など多くの不透明な要素が存在し、バルカーにとりましても厳しい事業環境となることが予想されます。
そのようななかバルカーは、業績の回復をより確かなものにする施策を着実に実行するとともに、“未来と未知に挑むチャレンジングな企業”として“ポストCOVID-19”における経済活動への貢献を強く意識した事業展開を行うなど、バルカーのそして地球全体の価値創造に向けた活動を続けてまいります。

2021年6月

代表取締役会長CEO　瀧澤利一

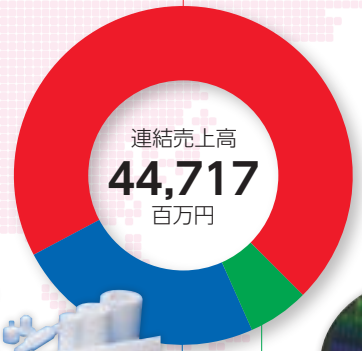
シール製品事業

売上高 31,349 百万円

売上高構成比 70.1 %

事業概況 シール製品事業は、機器市場や海外のプラント市場向けの販売が減少し、売上高は313億４千９百万円（前年同期比2.3%減）にとどまったものの、先端産業市場向けの販売が堅調に推移し、セグメント利益は41億６千万円（同23.8%増）となりました。

今後の展開 バルカーグループの主力事業として、先端産業市場における業容を拡大するとともに、機器市場やプラント市場に向けては新たな顧客価値を提供し、収益力の向上を図ってまいります。



機能樹脂製品事業

売上高 10,742 百万円

売上高構成比 24.0 %

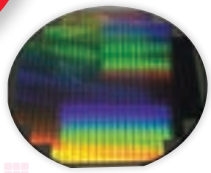
事業概況 機能樹脂製品事業は、主要市場からの需要が減少したことに加え、一部顧客への製品の納入時期が延期されたことや大型案件の見直し等により、売上高は107億４千２百万円（前年同期比17.9%減）、セグメント損失は５億８千８百万円（前年同期はセグメント利益５億５千４百万円）となりました。

今後の展開 先端産業市場・プラント市場向け戦略製品を軸にグローバルシェアの拡大を実現しつつ、選択と集中を強く意識した事業改革を推進し、収益性の改善を図ってまいります。

シリコンウエハーリサイクル事業他

売上高 2,625 百万円

売上高構成比 5.9 %



事業概況 シリコンウエハーリサイクル事業他は、主力事業の受託量が減少したこと等により、売上高は26億２千５百万円（前年同期比14.0%減）、セグメント損失は９千６百万円（前年同期はセグメント利益２億９千９百万円）となりました。

今後の展開 シリコンウエハーリサイクル事業における収益力の強化に加え、H&S（ハード&シールエンジニアリング・サービス）事業の業績化を速やかに図り、新たな価値創造を具現化してまいります。

Consolidated Financial Statements
連結財務諸表

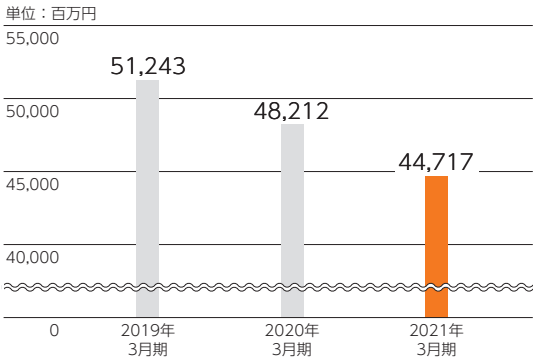
連結損益計算書
単位：百万円

科目	前期 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日	当期 自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日
売上高	48,212	44,717
売上原価	30,237	27,199
売上総利益	17,974	17,517
販売費及び一般管理費	13,760	14,041
営業利益	4,214	3,475
経常利益	4,256	3,673
税金等調整前当期純利益	4,270	4,506
当期純利益	2,996	3,150
親会社株主に帰属する当期純利益	2,918	3,090

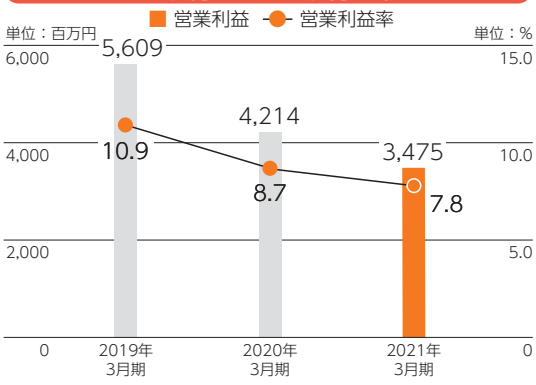
連結貸借対照表
単位：百万円

科目	前期末 2020年3月31日	当期末 2021年3月31日
資産の部		
流動資産	26,811	29,698
固定資産	21,317	22,993
資産合計	48,128	52,691
負債の部		
流動負債	10,517	10,764
固定負債	2,680	4,653
負債合計	13,197	15,417
純資産の部		
株主資本	32,843	34,335
その他の包括利益累計額	490	1,311
非支配株主持分	1,596	1,627
純資産合計	34,930	32,274
負債純資産合計	48,128	52,691

売上高



営業利益 ／ 営業利益率



配 当

	中 間	期 末	年間配当
2019年3月期	45.0 円	50.0 円	95.0 円
2020年3月期	50.0 円	50.0 円	100.0 円
2021年3月期	45.0 円	50.0 円	95.0 円

コロナ禍を業務改革・就業環境改善の機会に

新型コロナウイルス感染症は、さまざまな影響を社会と経済に与えていますが、バルカーはこれを機に業務改革・就業環境改善への取り組みを強化しています。

・リモートワークの推進

バルカーのリモートワーク制度は、“働き方改革”、“生産性向上”、“ワークライフバランスの実現”を目的として、2020年の始まりと同時に導入されました。

２月から３月にかけて、国内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、４月には政府による緊急事態宣言の発令があり、事業主へのリモートワーク推進が求められることになりましたので、結果的にはその動きに先行していたことになります。

その後バルカーは、全社横断型のリモートワーク推進プロジェクトを立ちあげ、“事業継続（感染症対策等）”も目的に加えて、ハード・ソフト両面の整備を推進しています。

具体的には、ハード面では通信インフラの整備、固定電話のモバイル化、ソフト面では押印の電子化、書類の電子化、タスク管理ツールおよびWeb会議等のコミュニケーションツールの導入、メンタルヘルスケア、情報管理等のコンプライアンス遵守、制度面ではリモートワーク手当（光熱費等の補助）の導入等を実施しています。

対面とリモートのベストミックスを追求しています

バルカーにおけるリモートワークは『在宅勤務だけではなく、お客さま等の現場に行くこと、外に出ること、生産性が向上するのであれば勤務場所を問わないこと』と定義し、新型コロナウイルス感染症の収束後も働き方改革への対応を意識し原則リモートワークとする計画です。

バルカーは、あらゆる環境変化を新たな成長の機会と認識しており、このコロナ禍も例外ではありません。

今後は、リモートワーク体制・環境の整備に加え、IoT・AI活用によるDX（デジタル・トランスフォーメーション）を一段と推進するなど業務改革を加速させ、持続的な企業価値の向上に繋げていきます。

・エンゲージメントの向上

当社は2027年に迎える創業100周年におけるありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」の具現化に向け、“信頼”と“感情”を大切にする企業文化の定着を図っています。

この考えは、『従業員一人ひとりが、やり甲斐やワクワク感を持って業務に取り組み、企業の成長と自身の成長を実感することが、エンゲージメント（自主的貢献意欲）を向上させ、それがバルカーの企業理念である“価値の創造と品質の向上”の実現に繋がる』というものです。

コロナ禍で従業員間のコミュニケーションが課題となり、また会社と従業員のあり方が変わりつつあるなか、エンゲージメントの重要性がさらに高まっています。

バルカーはこれからも国内外グループ規模での従業員エンゲージメントアセスメントや研修等を通じてエンゲージメントの向上に取り組み、企業理念“THE VALQUA WAY”のもとで、自ら考え、行動し、果敢にチャレンジしていく人材の開発・育成を進めていきます。

・メンタルヘルスケアの強化

リモートワークが進むなか、今までと違う形のストレスが社会問題化しており、従業員の心の健康維持の重要性も増しています。

バルカーは、メンタルヘルスケアの取り組みを年々強化しており、現在では外部カウンセリングおよび産業医による健康相談等に加えて、全従業員のストレスチェック、そしてその結果を基にした外部コンサルタントによるセルフケア研修（個人でできる対策）およびラインケア研修（職場での対策）による職場改善対策を実施しています。

今後、企業を巡る社会・経済の状況変化が大きく、そして速くなるなか、より多くの、そして新しい形のストレスが従業員にかかってくることが想定されます。

それに対してバルカーは、『企業の健全で持続的な成長には、従業員の心が健全であることが不可欠』との認識を強く持ち、従業員のメンタルヘルスケアの強化など、さまざまなアプローチで就業環境の改善を図っていきます。

・新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、従業員のマスクの常時着用、手洗いや消毒の徹底、出勤前の体温測定に加え、本社のある大崎事業所では「サーモグラフィーによる非接触の体温測定システム」を設置し従業員の出勤時の体温測定のみならず、来社される方の体温測定も行っています。

またオフィス内ではソーシャルディスタンスの確保、会議室・応接室へのアクリルボードの設置、さらに空気の入れ替えなどの飛沫感染防止対策も実施しています。

従業員は原則リモートワークですが、出勤する場合でも時差出勤等によりリスクを減らしています。またお客さまにもオンラインによる打ち合わせをお願いするなど社内外での感染防止対策を徹底し、安心して働ける就業環境を維持することで、従業員一人ひとりの安全衛生の確保に繋げています。

なお、当期に改定した危機管理規程には、感染症リスクも新たに盛り込みました。まずは新型コロナウイルス感染症の収束まで感染防止対策を徹底し、従業員等の安全衛生の確保につとめます。

本社エントランスのサーモグラフィー検温装置

会社の概況 (2021年3月31日現在)

社　名	株式会社バルカー (英文表記 VALQUA, LTD.)
創　業	1927年1月21日
設　立	1932年4月8日
資本金	13,957百万円
発行済株式総数	18,688,733株
株主総数	18,068名
従業員数	433名（連結　1,800名）

役　員 (2021年6月16日現在)

取締役

代表取締役会長 C　E　O	瀧澤　利一
代表取締役社長 C　O　O	本坊　吉博
取締役 専務執行役員 CTO 兼 CQO	青木　睦郎
取締役 専務執行役員 C　D　O	中澤　剛太
取締役（社外）	関　忠行
取締役（社外）	関根　近子
取締役（社外）	齊藤 三希子

監査役

常勤監査役	髙　昭夫
監査役（社外）	八戸　孝彦
監査役（社外）	高橋　秀法

執行役員

専務執行役員	小林　健一
専務執行役員	櫻井　慎也
常務執行役員	森田　信利
常務執行役員	椿山　善昭
常務執行役員	瀧澤　利治
常務執行役員	小川　禎
常務執行役員 C　C　O	谷田部 麻美子
執行役員	立田　寛
執行役員	植木　聡
執行役員	野邊　淳嗣
執行役員	伏屋　克俊
執行役員	今井　将廣
執行役員	後藤　智子
執行役員	神田　大輔

CEO：最高経営責任者
COO：最高執行責任者
CTO：最高技術責任者
CQO：最高品質責任者
CDO：最高デジタル責任者
CCO：最高コンプライアンス責任者

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 および特別口座 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-782-031
（ホームページ）	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告 http://www.valqua.co.jp/ir/koukoku.html ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部

株式会社バルカー
〒141-6024
東京都品川区大崎二丁目1番1号　ThinkPark Tower24階
TEL：03-5434-7370　FAX：03-5436-0560
URL：http://www.valqua.co.jp/

UD FONT
VEGETABLE OIL INK
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

※ この報告書は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。